

2021 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	中原 智美	職名	講師	学位	修士 (保健学) (山口大学 2011 年)
----	-------	----	----	----	------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
成人看護学, 遺伝看護学	慢性期看護, 糖尿病教育・看護, 生活習慣病, 多因子遺伝, 遺伝看護

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> 慢性疾患をもつ患者・家族への看護に関する研究 2型糖尿病の遺伝に関する知識が患者の自己管理行動および看護に及ぼす影響についての研究 初年次教育の学修効果に関する研究

担当授業科目																														
<table border="0"> <tr> <td>緩和・がん看護学</td> <td>(看護学科)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>成人看護学演習</td> <td>(看護学科)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>成人慢性期看護方法論</td> <td>(看護学科)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>成人慢性期看護学実習</td> <td>(看護学科)</td> <td>2020 後期～2021 前期 / 2021 後期～2022 前期</td> </tr> <tr> <td>看護のための臨床検査</td> <td>(看護学科)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>初年次セミナー I</td> <td>(看護学科)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>初年次セミナー II</td> <td>(看護学科)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護総合演習</td> <td>(看護学科)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護総合実習</td> <td>(看護学科)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護学</td> <td>(栄養学科)</td> <td></td> </tr> </table>	緩和・がん看護学	(看護学科)		成人看護学演習	(看護学科)		成人慢性期看護方法論	(看護学科)		成人慢性期看護学実習	(看護学科)	2020 後期～2021 前期 / 2021 後期～2022 前期	看護のための臨床検査	(看護学科)		初年次セミナー I	(看護学科)		初年次セミナー II	(看護学科)		看護総合演習	(看護学科)		看護総合実習	(看護学科)		看護学	(栄養学科)	
緩和・がん看護学	(看護学科)																													
成人看護学演習	(看護学科)																													
成人慢性期看護方法論	(看護学科)																													
成人慢性期看護学実習	(看護学科)	2020 後期～2021 前期 / 2021 後期～2022 前期																												
看護のための臨床検査	(看護学科)																													
初年次セミナー I	(看護学科)																													
初年次セミナー II	(看護学科)																													
看護総合演習	(看護学科)																													
看護総合実習	(看護学科)																													
看護学	(栄養学科)																													

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 緩和・がん看護学 (緩和・終末期看護学) 】</p> <p>主な担当内容は、がん看護 (5 コマ), 症状緩和のためのマネジメント (1 コマ) である。疾患・治療による影響のメカニズムやなりゆきを明確にし、看護の根拠を理解しやすいように組み立て、できるだけ具体的な看護方法を示しながら講義した。また、がんサバイバーが治療と生活を両立することをサポートするための視点にも重点を置き、法制度や社会資源、チーム連携のあり方を具体的に紹介した。</p> <p>講義内容の理解を深めるための工夫として、疾患・症状・治療などのイメージが難しいものについては画像を見せたり、医療ドラマなどの話題を盛り込んだりした。そのほか、講義内容と関連のある最新ニュースや新聞記事を紹介したり、講義前に治療へのイメージについてアンケートを行い、結果を共有して患者・家族の理解につなげたり、小テストを実施することで自己の理解度を振り返る機会を設けるなど、理解を深めるための工夫を行った。</p> <p>講義終了後には、学び・質問・感想を記入してもらい、次の講義の冒頭で質問への回答や感想を紹介し、お互いの考え・疑問を共有することにより関心を高められるように努めた。</p>

授業科目名【 成人看護学演習（成人・老年看護学演習） 】

看護過程演習では、慢性期疾患（肝硬変）の事例を通して看護過程の展開（12コマ）を主担当として講義した。反転学習として事前に課題に取り組み、自分が解決したい疑問点を整理したうえで講義に臨めるように工夫した。また、ポイントとなる点は繰り返し説明した。講義前後に教員8名で指導内容を共有し、講義の指示内容については、教員間で統一をはかった。

グループワークを円滑に行うために適切な人数を検討し、1グループは5名に設定した。個別性のある看護が導き出せるよう、担当グループを巡回しながら提出物へのコメントを細やかに行った。必要時には個別面談を行いフォローアップした。

技術演習では、患者役・看護師役として患者教育の体験ができるように工夫した。それぞれ、技術の手技習得のみならず、事例を題材として患者の生活改善や行動変容のために必要な教育や心理面への配慮すべき点を考えながら個別性に沿った援助を導きだせるように指導を行った。予習・復習のために、デモンストレーション動画も繰り返し見られるように掲載した。

授業科目名【 成人慢性期看護方法論 】

主に、内分泌・代謝機能／腎・排泄機能／生体防御機能に障害をもつ人の看護（計7コマ）を担当した。機能障害によっておこる身体面への影響、疾病のなりゆき、生活面や心理・社会的側面でのなりゆきを予測してアセスメントする力が身に付くよう、講義で取り上げた各疾患について、観察項目やアセスメントの視点を自分で考える機会を作るよう工夫した。また、看護目標、看護のポイント、症状・苦痛の緩和やコントロール方法、心理・社会面への支援方法などはできるだけ具体的に示し、根拠立てて理解しやすいように講義の流れを組み立てた。

学習内容への関心を高め、授業への集中力を高めるために、講義終了後に記入してもらった学びや質問を次の講義の冒頭で共有したり、単元（2～3コマ）ごとに小テストを行いこまめに振り返りができるようにしたりした。講義の間が空く際には課題を組み入れ、前回内容の復習、次の講義の予習につながるように工夫した。

授業科目名【 成人慢性期看護学実習 】

本年度はほとんどが学内実習であり、1クールのみ臨地実習を行うことができた。感染症拡大の影響により、時期によって対面、遠隔、臨地での実習パターンが異なったため、状況に合わせてながら実技実施の機会をできるだけ多く確保できるように努めた。遠隔であっても意図的な情報収集やコミュニケーション技術を実践できるように働きかけ、対面の場合も患者の心情、環境等をできるだけリアルに再現し、実践することでの気づき、失敗からの学びを大切に自己や他者を深く理解できるように働きかけた。動画教材等も活用し、実際に病棟で治療中の患者の様子などを思い描きやすいように工夫した。

実習中の実践、カンファレンスや最終面談においては、次の3点を意識して直接的・間接的に指導を行った。

- ①患者を全人的に捉え、これまでのライフスタイルや価値観を尊重した個別性のある看護実践
- ②看護展開を通して一貫性・整合性のある思考
- ③学生の強みと今後の課題

学習面、精神面などで特に指導を要す学生に対してはこまめに個別面談を行い、実習目標が達成できるよう個々の問題に応じた指導・支援を行った。また、実習内容、実習場所、実習方法の調整を行い、実習がスムーズに運ぶように働きかけた。

授業科目名【 看護のための臨床検査 】

本科目では、基盤となる血液検査、画像検査の基本を押さえたうえで、系統別に検査の特徴、実施法、看護上の注意点が理解できるように構成した。主として、内分泌・代謝系／腎・泌尿器系／血液内科系／皮膚科・耳鼻科・眼科系の検査（計4コマ）を担当した。検査の理解だけでなく、検査データから患者の病態を正しくアセスメントできるよう、まずは基本的なことや基準値を覚えることを促進する働きかけとして、講義の初めに知識確認テストを行った。また、終了前にはその日の内容について小テストを行い、毎回の講義に集中できるように工夫した。

授業科目名【 初年次セミナーⅠ 】

- ①昨年度の課題であったグループ学習については、グループ学習導入として講義3回目に学生の交流を図る場を1コマ設けた。また、ミニレポート・レポート作成の進行途中に意見交換の場を作ることでグループ学習の機会を増やした。
- ②学生の学習スキルをアップするために、ミニレポートではレポートの書式（構成）と文献検索スキルの習得を重点に、レポート作成では講義の流れを、考える・思考に重点におき授業を展開した。
- ③担当教員5名で、講義前後に講義の内容・指導方法について詳細な打ち合わせをした。講義の指示内容については、教員間で統一をはかった。

授業科目名【 初年次セミナーⅡ 】

- ①初年次セミナーⅡでは、初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた。
- ②学習内容・進度にあわせた講義進行を行い、発表・まとめを12月中に終了するようにした。そのため学生はポートフォリオ提出までの時間的余裕ができた。
- ③プレゼンテーションの評価表について、評価表の見直し・修正を行った。
- ④発表時の評価は、担当者5名に看護学科教員1名を加えた計6名で実施した。複数の教員による評価で、より客観的な評価を行うようにした。
- ⑤プレゼンテーションの後、学生・教員による評価を行い、優秀賞と準優秀賞を選出し発表の場を設けた。また、グループ別に評価をとおして自己の振り返りを行う時間を設けた。

授業科目名【 看護総合演習〔慢性期・終末期〕 】

自己課題に基づいたテーマの設定、および根拠ある看護実践のために文献検索を行い、文献や理論と比較しながら科学的な視点をもってテーマに沿った看護を追求することで今後の課題が明確になるよう指導した。レポート作成時は、研究論文の形式を意識して構成できるように、個別に繰り返し添削指導を行った。また、発表会を行うことでそれぞれの学びを共有でき、最終的に冊子も作成して達成感を感じられるように図った。

そのほか、ゼミメンバーや教員間との連絡・調整などを通して学生が主体的に行動できるよう指導・助言を行った。

授業科目名【 看護総合実習〔慢性期・終末期〕 】

本年度は臨地実習には行けなかったため、根拠に基づいた看護実践能力を培うことや看護実践における自己課題を明確にするために、3年生（成人慢性期看護学学内実習中の学生）への指導を通して自己の課題を探求できるようにプログラムを組んだ。3年生への指導を行うにあたり、あらかじめ学内実習の事例に関する事前学習、看護の展開を行い、事例に適した技術を追求し技術練習のプロセスを踏み、さらに他者への伝え方、効果的な助言方法（関わり方）を考えて実践できるように指導した。実習終了時には毎回、自己の成長を振り返り新たな課題を見出すことに繋がるよう、ミーティングや学びを共有する時間を設けた。

また、看護の質向上や互いの能力向上のために、メンバー間の連携として自分がどのような役割、働きかけを行うことが必要かを考え主体的・計画的に行動できるように指導・助言を行った。

授業科目名【 看護学 】(栄養学科)

本年度は開講されなかった。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護研究学会 日本糖尿病教育・看護学会 日本遺伝看護学会 日本看護科学学会 日本看護学教育学会		2007年4月～現在に至る 2007年5月～現在に至る 2007年5月～現在に至る 2012年7月～現在に至る 2013年7月～現在に至る

2021年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) オンライン講義による 初年次教育の学修効果 - 批判的思考態度から みた看護学生の学び -	共著	2022.3	西南女学院大学紀要. 26 (in press)	①オンライン講義による初年次教育の学修効果を「批判的思考態度の修得」「学修行動目標達成状況」の側面から経時的に把握し検討した結果、学修行動目標の達成には論理的思考の強化とグループ学習を効果的に行うための主体的に取り組む姿勢「探求心」の育成が必要である。 ②共著者名：高橋甲枝，目野郁子，笹月桃子，新谷恭明， <u>中原智美</u> ③共同研究につき，本人担当部分抽出不可能 (P未定)
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
ギラヴァンツ北九州における ・救護ボランティア (ミクニワールドスタジアム北九州に於ける試合の際、観客を対象とした救護活動) ・ホームゲームでの防災イベントでの AED・CPR講習 ⇒9月11日開催に向け準備していたが、感染拡大のため中止となった	学生ボランティアのコーディネーターおよび指導、引率	2019年2月～現在に至る (2020・2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響により活動休止中)

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験対策担当 (国家試験対策として、模試の計画・準備・実施・事後分析、強化学習や補講等の計画・調整・実施・評価、学生の個別サポート、看護師国家試験当日の引率、国家試験結果の分析など) ・1年生アドバイザー (学年全体の活動方針策定、担当学生の定期個別面談・履修指導、学業不振者や精神的サポート等の個別面談・保護者面談、学生総合支援室との連携、科目担当者との連携、遠隔授業に関するサポート、保護者懇談会の開催、ワクチン接種状況の確認など) ・公開講座委員 (2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催困難のため公開講座の開講は見合わせとなった)
--